

高宕沢遡行報告

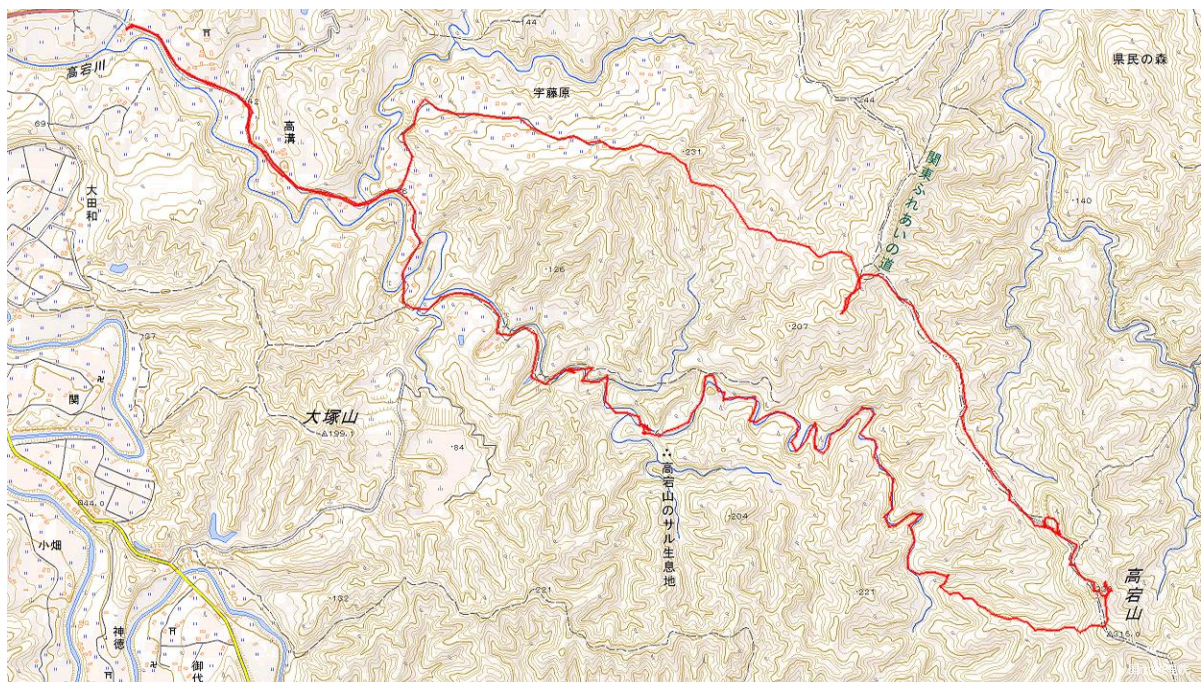
【日時】 4 月 7 日（日）

【天候】 晴れ

【行程】 JR 八幡宿駅→高溝区公民館(駐車)→高宕川入溪→高宕山
→浅間の頭→宇藤原→高溝区公民館

【参加メンバー】 小俣 CL、飯田(記録)

【内容】



館山自動車道を降り、国道 127 号を走る。道の左右に桜が咲き誇り、トンネルのようになっていて美しいのだ。ところが国道 465 号に入ると、これが国道か？と思えるほど細くてショボい！

高溝区公民館に車を止め、高宕川の入溪ポイントまでしばらく歩く。時折、雉の甲高い鳴き声が耳を突く。姿は美しいのにねえ。



あれこれ話し込んでいるうちにポイントに到着し、身支度を整え入渓。沢に入ると川幅は広く、滑床で歩きやすい。左右の岸には幾重にも筋が走っていて地球の歴史を物語っている。10 cmの堆積にどのくらいかかるのだろう？。

歩き始めるといきなりトンネルが現れた。自然にできたとは思えないのだが…。小俣さんによると、かつて上総地方は「川廻し」と言って、トンネルを造ったり、道を通したりして川の流れを人力で変え、できた土地で農作物を育てていたそう。高岩川もどうやらその形跡があるようです。なるほどねえ、勉強になります。猿回しなら知っているけど…。



奇麗な溪相とは言えないが、高低差はほとんど感じられず、巻くことも無く、歩きやすい滑床がどこまでも続く。入渓してから30分ほど歩くと目の前に大滝が現れた。高さはどれくらいだろう？20m以上はあるだろうか。左岸に残置ロープが掛けてあるけれど、これを使ってゴボウ抜きで登ったのでは面白くない。

いい手掛かりも無いこともあって、ロープをザックから取り出し、水量が少ないながらも滝のど真ん中を直登することに。セルフを取るのが難儀だけど、懸垂下降のトレーニングをするにはいいかもね。



2段の大滝を登っても滑床がまだまだ続くが、1時間も歩くとガレも増え沢も細くなってきた。楽しかったウォーターハイクもそろそろ終わりだ。地図で高宕山に近く、等高線広いところを探しながら歩く。藪こぎするにはいい感じの支流あったので、本流から支流に向きを変え、尾根をめざしてひたすら登り詰める。



道なき道を進むすすむ藪こぎは面白い(真夏は勘弁してね)。登山の醍醐味が詰まっているような気がする。支尾根に取りつければ、後はお気楽極楽だ。登りきったところで靴を履き替え、高宕山を目指す。道標に従って歩いていると何故か下り始めて、あれれ？山の横を行ったり来たりで、結局ピークを目指して直登することに。山は高さにあらず。侮るべからず、千葉の山！

高宕山のピークの眺望は素晴らしいけど、この日は気温が高めで霞がかかってちょっと残念。コーヒーを淹れてしばらく眺めていました。遠く南に目をやると、三角形の突き出た山に見えるし島にも見える、あれはいったい何なのか未だに不明。

眺望抜群の高宕山とはお別れし宇藤原方面に下山をすると、程なくの高宕山の観音堂に到着する。堂内では絵の講習が開かれていて何やら楽しそうでした。



観音堂を過ぎると残置ロープあって、ロープを頼りに登ると、そこには天空のテラスがありました。ここは、実は観音堂の真上で、ここもなかなかの眺望です。結局3回も観音堂の周りをぐるぐる廻ってしまいました。宇藤原への道はしっかりしているのになぜか地図に記載がない。道標は所々に真新しい手作りの物が掛けてあって迷うことも無く一気に宇藤原へ下山しフィニッシュとなりました。千葉の沢は初めての経験でしたが、面白さ満載で十分楽しめました。

記録：いいだ